

東日本大震災の被災地を忘れない



車だけが通行できる帰還困難区域から林の向こうに見える福島第一原発の建物

原発事故で 問われたことを 考える



居住制限区域には壊れた家屋や車両は放置されたまま

グリーンコープの福島支援のようす

2012年		共生地域創造財団を通して、物資による支援を始める。グリーンコープ生協(長崎)が「福島ほかほかプロジェクト」に出会う
2013年	7月	グリーンコープが介護員養成研修事業者指定を受け、福島県新地町で介護職員初任者研修を実施
2014年	2月	福島ほかほかプロジェクトにグリーンコープの食材支援開始
	5月	グリーンコープがひまわりプロジェクトに参加
	10月	ひまわりプロジェクトの大竹さん、川島さんがグリーンコープの地域運動交流集會に参加
	11月	福島県川内村の避難先の郡山市の仮設住宅にキッチンカーの貸し出し支援開始
2015年	12月	ひまわりプロジェクトのひまわり感謝祭に組合員が参加
	6月	南相馬・避難勤奨地域の会に放射能測定器2台を贈呈
	7月	保育園「こどものいえ そらまめ」に食材支援開始
	8月	福島子どもひまわり大使が夏休みにグリーンコープを訪問
2016年	10月	ひまわりプロジェクトの大竹さん・川島さん、川内村の志田さんがグリーンコープの地域運動交流集會に参加
	2月	グリーンコープが花見山に桜を植えるプロジェクトに参加
	3月	「こどものいえ そらまめ」の園長 門間さんと伊達市の島明美さんがグリーンコープの五年後集會に参加
	10月	花見山を守る会の高橋さんがグリーンコープの地域運動交流集會に参加

東日本大震災とともなう東京電力福島第一原発の事故から6年。グリーンコープは共生地域創造財団を通して被災地の支援に取り組んでいます。福島に暮らす人々とも出会い、出会ったところへの支援を続けてきました。2015年6月には、避難指示解除区域で土壌などの残留放射能の実態調査を行い、広く市民に知らせる活動をしている「南相馬・避難勤奨地域の会」に放射能測定器2台を寄贈しました。その測定器を使って地元伊達市で測定を続けている島明美さんから届いたメッセージを紹介します。

※グリーンコープ、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連携して被災地の復興支援などをしながら、共生地域の創造をめざす公益財団法人

6年目の真実

昨年12月、避難指示区域に指定されなかった私が住む伊達市の住宅地で、他団体の全面的な協力のもと土壌採取を行い、放射能測定器で土壌分析を行いました。1月29日に住宅地での報告会を行いました。40地点のうち放射線管理区域相当とされる1㎡あたり4万ベクレル(Bq)を下回ったのはたったの1地点だけでした。数値の範囲は、1㎡あたり4千840~72万5千Bqで、たとえ放射線管理区域であっても超えてはならない限度の40万Bqを超えるものが8地点(2割)もありました。チェルノブイリ事故での強制移住基準55万5千Bqを超えるものが4地点(1割)あったことは驚きです。

福島原発事故から間もなく6年、忘れかけていた放射能汚染が今更ながらに重く肩にのしかかってきた気分です。他の人たちよりも放射能を敏感に捉えてきた私でさえ驚きを隠せないのですから、地元の皆さんのご心労はいかばかりかと心配になってしまいます。今では一般的になった空間線量(マイクロシーベルト)では汚染を把握することはできないことがハッキリわかりました。しかし、この放射能汚染の真実から目を背けていては、いずれ後悔することになります。家族、とりわけ、わが子の将来が第一です。まず、実態を捉えた上でよりよい対処方法を選択していければいいと思っています。

福島県伊達市 島明美

3.11 でんきを消して キャンドルナイト スローな夜を

グリーンコープはこれまでこれからも被災地の人々の心に寄り添った支援を続けます。そして、原発のない社会を実現していくためにできることから取り組みます。

「震災で亡くなられた方の追悼」「被災地の復興への願い」そして、「原発のない社会への願い」を掲げ、一人ひとりが被災地に思いを馳せ、日本の今を見つめなおし、本当の幸せとは何かを考える機会としましょう。



共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2017 3月

■発行：グリーンコープ共同体理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

Contents

2016年度 脱原発学習会	2
台風被害を受けた生産者からメッセージ「感謝の玉ねぎ」を通じたハンザリム生協との交流報告	3
東日本大震災から6年	4・5
2016年度 共同体福祉委員会主催 学習会	6
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協ひろしま 船津 晶子さん	7
別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載	

チェック!

今年は東日本大震災から6回目の3月11日。被災地のみなさんに元気を出してもらおうための募金への協力をよろしくおねがいします。



募金にご協力ください

3月6日~18日の2週間、東日本大震災復興支援募金の申し込みを受け付けています。

共同購入申込書で **005** 東日本大震災復興支援募金 一口300円
お申込みください。 **006** 東日本大震災復興支援募金 一口500円

※詳しくはカタログGREEN51号(2月27日週配布)のチラシをご覧ください。

4,5面に関連記事

原発のない社会の実現をめざして

「総括原価方式」に反対し、 原発を産みだした「総括原価方式」に反対し、 「原発フリー」の電気の共同購入を成功させよう

2016年度 脱原発学習会 共同体組織委員会

グリーンコープは、2016年6月の第十期共同体通
常総会で、特別決議「グリーンコープは今般、電気の共同
購入を開始することとおして、「脱原発社会」に向かう
扉を大きく、力強く開いていきます」を採択し、電気の共
同購入を進めています。

1月23日、福岡市で脱原発学習会が開催され、組合員・
ワーカー・職員136人が参加し、改めて特別決議の内
容について共同体顧問の行岡良治さんから話を聞きまし
た。脱原発への思いを新たにすると共に、この春エリア全
体に広がる電気の共同購入事業の成功に向けて心を一ツ
にする機会となりました。講演要旨を報告します。

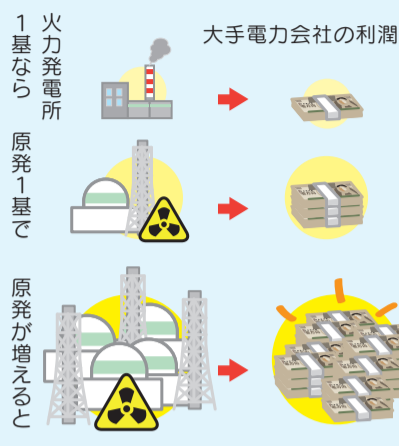


グリーンコープ共同体顧問
行岡 良治さん

「総括原価方式」のからくり

この仕組みを使えば、大手電力会社は消
費者の費用負担で発電所を建設できる。さ
らに、発電所の建物や施設設備などの資産
が増えれば利潤（儲け）も増える仕組みに
なっているため、大手電力会社は巨額な費
用を案ずることなく原発の建設を推進して
いった。

消費者負担で資産を増やし、資産を増やせば儲けも増える？



講演後、単協からは、電気の共同購入について組合員に分
かりやすく伝えようと取り組んでいるようすが報告され

今回、小売電気事業へ
の参入を準備する中で、
現在の電気料金に、「総
括原価方式」によって設
定されていることを知り
ました。この「総括原価
方式」こそが、原発を産
みだす経済的な基礎とな
っていると考えます。

大手電力会社は「総括
原価方式」によって国家
に守られ、消費者に巨額
の費用を負担させながら
次々に原発を建設し、利
益を得ていきました。

「消費者・国民のため」という名目で

「総括原価方式」は、生
産・供給に必要な原価を
すべて、その小売価格（電
気料金）をとおして消費

者から回収できるように
する仕組みです。72年前
の終戦直後、日本の多く
の生産設備が破壊され灰
となってしまった状況の
下、水・電気・ガスにつ
いて、それぞれの生産を
奨励・保護するために設
けられました。戦後復興
を目的にこの仕組みが適
用されたこと自体は、適
切・妥当だったと考えま
す。

「総括原価方式」が導入
される際、「必要な原価」
を「小売価格とおして
消費者から回収」するた
めに、発電所や送・配電
施設の建設費用などはす
べて、電気料金に含まれ
ることになりました。さ
らに、本来は電力会社の
経営努力によって確保さ
れるべき利潤さえも、前
もって一定比率で料金に
盛り込む形で設定されま

した。

この制度を正当・合理
化したのは、「停電がなく
なつて一番助かるのは消
費者である国民だから、
発電所を建設するために
必要な費用などは、国民
が負担すべきだ」という
理屈でした。

また、「電気事業は巨額
な設備投資が必要だか
ら、一定地域規模での独
占事業として経営を保護
しなければ、消費者に安
価な電気を安定的に供給
することができない」と
いう理由から、地域ごと
に電気を独占販売する電
力会社がつくられ、国民
は、そこからしか電気を
購入できないことになり
ました。

その後、日本経済は目
覚ましく復興します。1
953年後半には戦前の
水準まで回復し、その後
高度経済成長時代に突入
しました。政府は、「国民
の利益のために」と理由
付け、爆発的に増大する
工業用・産業用の電気の
需要を「総括原価方式」
によって賄っていきまし
た。

原子力発電所の建設が 大手電力会社を潤す

「総括原価方式」にお
いては、電力会社が投下
した資本額に比例して利

潤が保証されます。従っ
て利潤を増やすためには
資本額を増やせばよく、
その格好の投資対象とな
ったのが、建設に巨額の
費用を必要とする原子力
発電所でした。

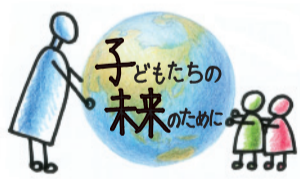
形を変えて生き残る 消費者負担の構造

2016年4月から始
まった電力の小売自由化
に伴い、これまでの「総
括原価方式」は今後廃止
される見込みです。しか
し政府は、国会での審議
を経ず政令を変更するこ
とで、大手電力会社に有
利な業界の構造を今後も
温存しようとしています。
大手電力会社がこれ
まで電気料金の一部とし
て消費者から徴収してい
た「電源開発促進税」や
「使用済燃料再処理等既
発電費」は、新電力が大
手電力会社に支払う電線
使用料（託送料金）にも
盛り込まれることになり
そうです。

私たち一人ひとりが 考え行動しよう

電力の小売自由化が開
始されるまで、私たち消
費者は「原子力発電所で
発電された電気」を使用
する以外に選択肢はあり
ませんでした。その私た
ちに「過去に原子力発電
所で発電された電気を使
用していた」という理由
で原発の費用を負担させ
るのは、果たして正当だ
と言えるでしょうか。

大手電力会社や政府も
絡んだ電気業界の根深い
問題や構造を知った今、
どのように行動を起こす
のか、私たち一人ひとり
が問われています。



No.103

3.11から6年

経済産業省が東京電力福島第一原発事故の賠償や廃炉にか
かる費用について21.5兆円規模と試算しました。更にこれ以
上に膨れあがる可能性を認めています。これは当初政府が想
定した費用のほぼ倍になり、国の新年度予算97.5兆円の2割
をゆうに超えます。

チェルノブイリの強制避難地域に該当する線量があるにも
かかわらず、福島では除染が進んだとして次々に避難解除さ
れています。それに伴い、自主避難者への住宅無償提供は、
今年3月で打ち切れようとしています。

この一度の原発事故が多くの人の人生を狂わせ、たく
さんの悲劇を生み、6年経った現在も大きな禍根を残してい
る事実を決して忘れてはいけません。だからこそ脱原発の意
志をしっかりと示しましょう。

私たちにもできる意思表示として、この春よりグリーン
コープ全エリアで取り組む「グリーンコープでんき」の共同
購入に参加しましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会

台風被害から5カ月、 少しずつ復旧がすすんでいます 訓子府有機農法研究会・有機農法すずらん会

2016年8月末の台風10号の襲来では、北海道の産直産地・メーカーも被害を受けました。グリーンコープは組合員にカンパを呼びかけ、10月に産直生産者の訓子府有機農法研究会、有機農法すずらん会をはじめ被害の大きかった産地・メーカーに義援金を届けました。

2017年2月1日、2つの生産者グループの代表の方が共同
体理事會を訪問されました。

有機農法すずらん会の中島晋さんは、「台風の被害でどうしようかと思っていたところ、義援金をいただき本当にありがたく、元気が出ました。長引く悪天候の影響で、生産した作物も満足できません。皆様のおかげです。皆さんの温かいお気持ちに感謝しています。訓子府有機農法研究会の佐々木直樹さんは、「思いがけず義援金をいただき、とても助かりました。感謝の気持ちを直接伝えてほしいという仲間の思いを代表して参りました。ありがとうございました」とそれぞれ、お礼の言葉を述べました。お二人からお聞きした現地の様子や、グリーンコープの産直生産者としての想いをご紹介します。

「感謝の玉ねぎ」を通じた グリーンコープとハンサリム生協との 交流報告

昨秋、台風や大雨のために産直玉ねぎの供給が難しい状況に対して、韓国の友誼団体ハンサリム生協から玉ねぎを提供いただき、「感謝の玉ねぎ」としてカタログGREEN33号から39号で企画しました。お店やキープ&ショップも含めて、合計で約25トンを経営者に供給することができました。

その緊急支援について感謝の気持ちを伝えるために、2月3日にグリーンコープから9人がハンサリム生協を訪問しました。これまで育ててきたつながりが「感謝の玉ねぎ」を通して一層深まり、これからの人的・物的交流の進展に向けて弾みになる交流となりました。訪問した組合員の代表2人の感想を紹介します。



交流会に参加したハンサリム生協とグリーンコープの関係者



「感謝の玉ねぎ」という素敵な名前を付けてくれてありがとうございます。昨年、海を越えて韓国から届けていただいた玉ねぎのお礼を伝えたいと、組合員の皆さんの想いを託されて訪れた私たちが、ハンサリム生協や玉ねぎ生産者の方たちは、そう言うて温かく迎えてくださいました。玉ねぎが私たちの食卓に届くまでに関わった、皆さんの苦労や検討の様子の報告があり、なかでも「モノとしての交流はこうして終わったが、感動はみんなの心に残った。連帯して未来に一緒にすすむ仲間として、お互い分け隔てなく優しく包み込むような交流を続けたいし、続けていけると確信した」と言われたハンサリム生協の郭会長の言葉がとても印象的でした。子どもたちに明るい未来を届けたいという、同じ想いをもつ母親として女性として、これからもより深く想いを寄せて交流していきたいと改めて感じることでできた貴重な2日間でした。

グリーンコープがごま生協 理事長 下本地 紀子

グリーンコープ生協くおか 中部地域理事長 三原 幸子

「感謝の玉ねぎ」というネーミングは私が思いつき、共同団体理事の皆さんに賛同いただきました。ハンサリム生協の生産者には「買ってくれた人達からなぜお礼を言われるのか」という疑問があり、なぜこのネーミングにしたのか質問されました。大切な玉ねぎを緊急措置として分けていただき感謝しかないと感じると、「感謝の玉ねぎ」のお礼に行ったのに、逆に「生産者の側からも産直が実感できる」というグリーンコープの考え方が改めて素晴らしいと思いました。これまでの心の交流だけでなく、モノの交流もできるコトが分り、国境を越えて助け合う連帯が更に強くなったと感じるお礼の旅でした。

有機農法すずらん会 会長 中島 晋さん

温暖化が進み、北海道でも梅雨のような長雨は珍しくなくなりましたが、昨年6月下旬から7月のひと月は、合わせても1日分しか晴れ間がない、深刻な日照不足に見舞われました。人参が長雨で生育できない中、台風の大雨で土がえぐられ、土の中で生育するバレイショはその後の日照りで緑化し、収穫できませんでした。

こだわりを持って作っていることを分かってくださる組合員さんと直接話し、交流するたびに元気をもらっています。



左から訓子府有機農法研究会 会長の佐々木直樹さん、有機農法すずらん会 会長の中島晋さん、共同代表理事の熊野千恵美さん

訓子府有機農法研究会 会長 佐々木 直樹さん

昨年は長雨と日照不足に追い打ちをかけるように、台風10号の大雨で、大事な土を1m以上もえぐり取られました。土は長い年月をかけて作ったもので、元通り収穫できるまでには5年~10年という時間が必要になると思います。なかなか水が引かず畑に入れないでいるうちに玉ねぎが生長し、収穫できたものは玉太り傾向でした。玉ねぎは水に浸かる時間が長くなると、雑菌を含む水分が皮の間に入ります。出荷までは貯蔵するため、腐らない心配でしたが、例年になく低温が続いており、菌の発生は抑えられています。

今回の災害で義援金までいただいたのはグリーンコープさんだけです。人と人が直接つながる顔の見える関係があればこそだと感じました。



冬場に凍結する北海道の土壌は、ローラーで雪を圧縮して土の中に封じ込めることで、有害な菌が死滅し、雑草が根ごと枯れ、土もやわらかくなる。気象条件を生かした土づくりが行われている

**2016年10月
鳥取県中部地震
への救援金(カンパ)**
47号、48号合わせて
5,792,200円
集まりました。
ご協力ありがとうございました
支援内容・カンパの用途については、次号(共生の時代4月号)で報告します。

**2016年度
fromネグロス
クリスマスカンパ**
最終確定額
5,366,337円
ご協力ありがとうございました
集められたカンパは*APLAをとおしてアジアの人々の自立に役立てられます。
*アジアでの「農を軸とした地域づくり」を目指し、出会いや交流の場の創造をすすめるNPO法人

一般社団法人グリーン・市民電力から
ひろがれ! 私たちの発電所

グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,653人 1,060,817,000円
(2017年1月26日現在)
「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2016年12月の 売電量	若宮物流センター 太陽光発電所売電量 2,916kWh 定格出力47kW(13世帯相当)
神在太陽光発電所 売電量 62,960kWh 定格出力1,057kW(280世帯相当)	広島物流センター 太陽光発電所売電量 3,334kWh 定格出力47kW(13世帯相当)
平池水上太陽光発電所 売電量 93,814kWh 定格出力1,260kW(380世帯相当)	グリーンコープやまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所売電量 2,239kWh 定格出力54kW(15世帯相当)

東日本大震災から6年 これからもつながり、支援を続けていこう

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から6年が経過しては、被災地は復興の途上にあります。グリーンコープは現在も、公益財団法人共生地域創造財団(以下、財団)を通じ、様々な困難を抱えている人への支援を続けています。

2016年12月9日、12日、組合員の代表5人が東北を訪れ、財団が行ってきた支援の様子を視察し、その5年間の報告となる「ともいき」シンポジウム、「ひまわり感謝祭」に参加しました。その様子と併せて、被災地の現状とこの間の支援の様子を報告します。

支援を行ってきた団体や地域の活動の様子

福島県

NPO
花見山を守る会
(福島市)

標高180mの花見山には、グリーンコープ関係者やメンバーが2016年に植樹のカーンバをし、思いを綴ったプレートを下げた桜の樹があります。春には山が桜色に染まります。



桜の樹に付けられたプレート

ひまわりプロジェクト

日本各地からひまわりプロジェクト関係者が集まったひまわり感謝祭にグリーンコープからも参加し、前夜祭では交流を深めました。NPO法人シャローム(以下、シャローム)代表大竹静子さんは「熊本地震の一報を聞いて集まると、募金を手渡されました。思いがけない申し出に、くまもと副理事長の中村千穂さんは「まだまだ復興途中ですが、がんばっています。ありがとうございます」と感謝の言葉を伝えました。大竹さんは「グリーンコープのみなさんにひまわり油を利用していただき感謝しております。福島は何処に向かうのか分かりませんが、全国のみなさんと手をつなぎながら新しい福島をつくっていきたく思います」と熱く語りました。



※1 全国の支援者に、ひまわりを育ててもらい、集まった種でひまわり油を作って販売する。グリーンコープは2014年より各単協の施設やお店などでひまわりを育て、種を送っている。※2 シャロームが全国の支援者に感謝すると共に交流がいつまでも深まることを願って開催している。今回で6回目。



ひまわり油(みなの手)

かわうち 川内村

避難先の郡山市の仮設住宅でキッチンカーを使った食事支援などを続け、川内村の村議となった志田篤さんは、「5年の間、生活を再建できると思ってもいけなかったけれど、放射能汚染は無くなかなかた。村の過疎化と高齢化は深刻。復興予算を使ってきたスパーは、復興者が利用できる価格ではなく、買物に困っている人が多い。郡山市の仮設住宅が今年の3月で打ち切りになるため、地元に戻ると決めた高齢者が一気に帰ってくるだろう。4月から村でも食事支援を開始したい」と語りました。



郡山市の仮設住宅での食事支援の様子

福島ほかほかプロジェクト



放射線量の高い地域に暮らす子どもたちが線量の低い地域で遊び学べる保養支援を行っています。グリーンコープは、放射能測定器を寄贈しています。(1面に関連記事掲載)

南相馬・避難勧奨地域の会

避難指示解除区域の土壌などの残留放射能の実態調査をし、広く市民に知らせる活動を行っています。グリーンコープは、放射能測定器を寄贈しています。

宮城県

一般社団法人 WATALIS (巨野町)

中町カフェで商品を選ぶ組合員

手仕事を通して、地域のコミュニティの再生と女性たちの生きがいづくりを目指し、ワークショップも行っています。コミュニティカフェ「中町カフェ」は地域の方々の居場所や交流の場になっています。グリーンコープはカタログGREENでWATALISの商品を取り扱っています。



はまぐりほま 蛤浜・折浜 (石巻市)

牡蠣いかだの支援などを続けてきた蛤浜・折浜では、牡蠣の養殖業の復興に向けてがんばっています。また、若者の就労支援にも取り組んでいます。

斉藤農園 (巨野町)



左から中村さん(くまもと副理事長)、斉藤さん(斉藤農園)、三原さん(ひくおか副理事長)

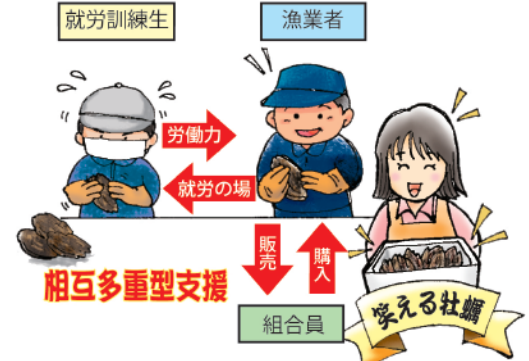
いちご農家の斉藤農園は津波で被害を受けました。野菜やいちごを栽培する環境を整え、今では6棟のハウスで、野菜や無農薬のいちごを栽培しています。川内村の人たちが暮らす郡山市の仮設住宅にも野菜を届けたいです。これからも販売支援など必要な支援を続けます。



福島第一原発のそばを渡る国道は、車は窓を閉めて通行することができず。福島第一原発に近くつれて、車内のガイガーカウンター(放射線測定器)の数値はどんどん上がっていき、



図1 就労訓練生



一般社団法人 コミュニティスペース うみねこ (女川町)

お父さんたち手づくりの「ゆめ玉ストラップ」

女川町で暮らす人たちの「就労の場」をつくり出すことに取り組んでいます。果樹園cafeゆめハウスでは、手づくり作品なども販売しています。お父さんたちが果樹園で栽培したイチジクを使ったデザートが人気です。グリーンコープはカタログGREENで商品を取り扱っています。

共生地域創造財団主催 石巻の明日を創る！ 「ともいき」シンポジウム 〜復興支援から 困窮者支援へ〜

2016年12月11日 石巻市で開催

震災直後、緊急の物資支援から始まった共生地域創造財団の取り組みは、被災した方の心のケアやコミュニティづくり、震災によって仕事を失った方への就労支援へと、地域状況や変化に応じて日々移り変わってきています。財団が取り組んできた5年間の若手県、宮城県での取り組みを報告します。

岩手県

大船渡市での活動 「決して見捨てない」



大船渡市での被災者支援の様子

岩手県大船渡市では、震災直後から津波などで自宅に被害を受けながらもそのまま暮らしを続ける方の家を、一軒一軒訪問してきました。困ったことは無いが聞いて言葉を変え、物資を届けることで「決して見捨てない」というメッセージを伝え、被災者の孤独死・自殺・社会的孤立を防ぐよう努力しました。大船渡市に事務所を開設し、2012年から在宅被災者見守り

支援、2016年から仮設住宅集約に伴う相談支援を市から受託しました。復興住宅や自宅再建へ至った方の住居の問題については、解決の方向が増えました。また、仮設住宅から出ていけない方々の課題解決に向けた相談、生活基盤を整える支援が増え必要とされる状況です。

大船渡市での被災者支援が認められ、大槌町でも課題を抱えた被災者を対象とした相談支援事業を2017年から始める予定です。

宮城県

石巻市での 相互多量型支援(1)参照 の取り組み

石巻市蛤浜・折浜では、復興支援と就労支援の協働事業が進んでいます。今後の被災地支援は、地元の牡蠣や水産加工品メーカーとどう連携を取り、就労支援の現場を作るかがカギになります。就労訓練生が、牡蠣磨きや箱詰めの作業をすることで、自らの役割や居場所を見つけ、震災復興の助けになります。漁業者は、就労訓練の場を提供し、就労訓練生にアドバイスなどの協力をします。そうした相互多量型支援が生まれています。生協の販路を活用し、組合員には震災から復活した牡蠣を買って食べてもらうことで、東北の復興と就労支援を応援してもらっています。東北から広がりをこめて笑える牡蠣と名づけました。

復興支援を通じて様々な活動とたくさんの方々のネットワークが生まれています。決して復興すれば終わりというわけではなく、今までの以上に地域に根ざした活動が必要になってきます。復興支援は、支援者だけががんばるものでもなく、被災当事者だけががんばるわけでもありません。それぞれができることを考えて協力して活動していくことで、復興が逃げられて、それが継続性のあるものへとつながっていきます。

パネルディスカッション 「復興支援から困窮者支援へ、石巻市の現状を考える」



「復興支援から困窮者支援へ、石巻市の現状を考える」

岩手県大船渡市では、震災直後から津波などで自宅に被害を受けながらもそのまま暮らしを続ける方の家を、一軒一軒訪問してきました。困ったことは無いが聞いて言葉を変え、物資を届けることで「決して見捨てない」というメッセージを伝え、被災者の孤独死・自殺・社会的孤立を防ぐよう努力しました。大船渡市に事務所を開設し、2012年から在宅被災者見守り支援、2016年から仮設住宅集約に伴う相談支援を市から受託しました。復興住宅や自宅再建へ至った方の住居の問題については、解決の方向が増えました。また、仮設住宅から出ていけない方々の課題解決に向けた相談、生活基盤を整える支援が増え必要とされる状況です。

大船渡市での被災者支援が認められ、大槌町でも課題を抱えた被災者を対象とした相談支援事業を2017年から始める予定です。



報告者
共生地域創造財団 事務局長
多々良 言水さん

財団は、三つの団体(NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク、グリーンコープ)で構成され、組合員からのカンパ金で支えられている。現在3カ所で事務所を構え、被災者支援に取り組んでいる。



財団の7つの理念は、生活困窮者支援と共生のキーワードを持つ

- 1) もっと小さくされた者への偏った支援を小さくしつつ継続的に行う
- 2) 当事者から聴き、学ぶ姿勢を持つ
- 3) 困窮者の課題を経済的・社会的・関係の困窮として捉える
- 4) 絆の相互性を尊重する
- 5) 自尊感情と自己有用感を尊重する
- 6) 官民の連携・団体との連携を図る
- 7) 復興ではなく新たな共生社会の創造を目指す

法とは共通理解



おわりのあいさつ
グリーンコープ生協おいた理事長
宇都宮 陽子さん

私たちは東日本大震災以降、この地で人と人とのつながりをつくり続けています。私たちグリーンコープからも組合員、ワーカーズ、職員、たくさん仲間が、現地で支援に取り組んできました。2016年春、九州で大きな地震を経験したことは、家族と笑い合う当たり前の日常が、何と大切なことなのかということでした。そしてその日常はあっという間に、いと簡単に崩れ去ってしまうのです。そんな状況でもこうして元気に一歩一歩進めるのは、やはり、人と人とのつながりがあったからだ改めて感じています。東北から遠く離れた地に暮らす私たちにできることは、今日のことを、それぞれの地域の組合員へ伝え、人と人をつなぐことです。それが被災地のみなさんを応援していくことだと思っています。これからも力強く未永く応援していきたいと思っています。

2016年度
グリーンコープ共同体福祉委員会主催学習会

福岡市 組合員など116人参加

生きてさえいれば、いつか笑える日が来る



生笑一座のつらかった経験を時には笑いにかえる話に、思わず笑顔になる参加者

1月26日、NPO法人抱樸の困窮者支援の現場から生まれたプロジェクト「生笑一座」の皆さんを講師に迎え、共同体福祉委員会主催の学習会が福岡市で開催されました。座員の皆さんに、仕事や家族、人間関係さえ失ったつらい経験をしながらも今笑えるようになったきっかけや、今に至るまでの気持ちを実演を交えながらお話しいただきました。講演後、参加者からは「人は支え合って生きるという言葉が胸に響いた」「大人が『助けて』と言える社会をつくっていきたい」などの感想がたくさん寄せられ、一座の皆さんの思いがしっかり伝わる講演となりました。

生笑一座の皆さんの活動に込めた思いを、講演の内容と共に紹介します。



空き缶を見分ける名人の西原さん(左)に、参加者が挑戦!



谷本さん(右)のバイオリン伴奏で「シャボン玉」の歌を歌う房野さん

生笑一座が誕生したのは2013年春。2000人余りの教職員が集まった大会での初舞台を皮切りに、これまで全国の小・中学校や地域でたくさんの方々の公演を行ってきた。座長の奥田さんは、「生笑一座」プロジェクトは、子どもたちを死に渡さないためのプロジェクトであり、共に生きるための一座です」と語る。

助けてと言えた日が助かった日
小学校での公演では、最初、子どもたちは興味を示さないが、話が進むにつれ、どんどん引き込まれていく。感想文に「何度か死にたい、いなくなりたいと思ったことがあった。でも皆さんの話を聞いて、もうちょっとがんばろうと思う」と書いてくる子どももいる。

西原さんは、野宿生活の11年間をアルミ缶を拾い換金して生きてきた。アルミ缶の買取り価格は国際的な相場で変動する。2008年のリーマンショック以降、買取り価格が暴落して現金収入が減り、途端に食べることも困るようになった。それまで気にかけて声をかけてくれていたNPO法人北九州ホームレス支援機構(現NPO法人抱樸)の応援を受け入れ、アパートを借り、仕事に就いて地域で暮らせるようになった。

奥田さんは、「人間は、分らないことや理解できないことは怖いことだと思ってしまう。ホームレス状態になつて仲間とつくるボランティア組織(仲間の会)に入り、活動を始めた直後、がんが見つかり入院。すると毎日スタッフや仲間が見舞い、絶望の淵にいる西原さんを励まし支えた。「一人じゃない、生きていていいんだ」と思えた。「皆さんの前で笑って話せるのも、生きていたからこそ。助けられた有難さも支える楽しさも分かりました」と力を込める。

豊かになつた日本で、子どもたちはいじめに悩み、自ら追い詰めてしまふという悲しい現実が繰り返されている。「一昨年、内閣府が出した過去42年間の子ども自殺に関するデータでは、1日に1人以上の子どもの命が亡くなっています。その中で突出する日が、新学期が始まる日とその前後なんです」と奥田さん。子どもが学校に行けず、助けてとも言えずに死んでいく社会とは、いったいどういふ社会なのかと訴える。



NPO法人抱樸 生笑一座
写真左から
座長 蛸 牡蠣右衛門 (本名:奥田 知志さん)
NPO法人抱樸 理事長、社会福祉法人グリーンコープ 副理事長、牧師
座員
西原 宣幸さん
松尾 壽幸さん
松葉 吉一さん
房野 幸枝さん
下別府 為治さん
谷本 仰さん
NPO法人抱樸 副理事長、牧師、ミュージシャン

助けられた人が助ける側に
座員の皆さんは「野宿生活に二度と戻りたくないけれど、ムダじゃなかった。助けてと言えた日が助かった日だと子どもたちに伝える役割ができたから」と話す。

助けてと言えない子どもたち
「原因はいじめの問題だけでなく、家庭など様々にあるかもしれないけれど、大きく言えるのは、私たち大人が『助けて』と言ってこなかったからではないでしょうか。大人が援助を受けられる力『受援力』を持つていないかどうかが、大人たちが、本当は人間は弱い、弱いからこそ助け合つて一緒に生きていくんだというのを、子どもたち

の前で正直に言うことが大切です」と続ける。奥田さんをはじめ生笑一座は、一人でも多くの子どもたちにこれからも伝えていく。「助けて」は恥ずかしい言葉じゃない。困った時、苦しい時は遠慮しないで言っていんだよ」と。

公演の申し込み、問い合わせは、NPO法人抱樸まで(093-653-0779)
<http://www.houkoku.net>

送信 グリーンコープ生協くまもと 理事長 牧 幸子
長男が17歳になり、長男の誕生と共に始めた、グリーンコープ活動は、理事・委員としての組合員活動17年間の歴史に幕を下ろすことになりました。今振り返ると、子育てをしながら、がむしゃらに、そして泣き笑いしながら、日々たくさんの方々に出逢うことができた最高の期間(とき)でした。また、数々の経験の中には熊本地震があります。「あたりまえの日常」がいかに尊いものなのか、身にしみてその有り難さを実感しましたし、グリーンコープという組織や組合員の偉大さにも気付かされた出来事でした。私は、これからも感謝の念を抱き続け、次の世代へとバトンを渡せることへの喜びを胸に、新たなステージに向かいたいと思います。一人の母親、女性、人間(ひと)として自分磨きの旅に出かけてきます。



被爆体験を継承する会

～ヒロシマを未来に語り継ごう～



代表 船津 晶子さん

●プロフィール
広島市在住
グリーンコープ生協ひろしま組合員
中央支部中部地区委員

人が人に伝える、 それが平和につながる



例会に集まった会の皆さん。右端が船津さん

被爆体験を継承する会
2016年度グリーンコープ生協ひろしま福祉活動組合員基金助成団体
主な活動:
●映画の上映会(貸出可)
「アトミック・ママ」(著作権無期限)
「太陽が落ちた日」(著作権期限調整中)
●被爆者を招いて話を聴く学習会等
連絡先:funa2874aki@gmail.com

広島市で生まれ育った船津晶子さんは、72年前の8月6日のことを、祖母から繰り返し聞いて育った。祖母は、「あの朝、たった一発の原爆により家の下敷きになった私(祖母)と4歳だった五男(船津さんの叔父にあたる)は幸いやけども怪我もなく助け出された。3日後には19歳の長男(後の船津さんの父)も県外から戻り、「みんな助かった」と思った。しかし幼い4歳の五男は、下痢や高熱(急性放射線障害と思われる)が続き、なすすべもなく亡くなった。当時は放射線による被爆の怖さなど誰も、医者さえも知らなかった」と話していた。

被爆二世であることを意識

船津さんは、父親が入市被爆者で被爆者健康手帳を持っていることを知ってはいしたが、特に健康上の問題はなく、自分が被爆二世であることを意識することはなかった。しかし、父親が60歳を過ぎてから、脊髄の腫瘍やがんなどに見舞われると、被爆との関連を考えると、遺傳的影響などに関心を持つようになった。

平和に関わることをやりたい

長年、保育士をしていた船津さんは、保育の現場で忙しく働きながら、自分の保育に自信が持てず悩んでいた時期もあった。そんな時、保育研修の講演会で「細かいことは気にせず子どもが笑顔で過ごせることが一番。そんな日常が一番大事だ」という言葉が、気持ちが楽になった。戦争中に子ども時代を過ごした園長先生の、重いつしりとした言葉だった。「あの時何でもない日常がとても貴重に思えたんです。平和に関わる何かをやりたい、今の私の原点がああ保育士時代にあつたと思います」と振り返る。

8年ほど前に早期退職してからは、平和公園・平和記念資料館で「ピースボランティアガイド」の活動をしながら歴史を学び直したり、原爆や核の問題などを勉強している。また、被爆者の高齢化で被爆体験の継承が難しくなる懸念から、広島市では被爆体験伝承者(以下、伝承者)の養成が始まり、2013年に2期生として応募した。3年かけて、原爆についてや複数の被爆者の個人

的な被爆体験を学んだ。伝承者として広島市から委嘱を受けて平和記念資料館で月1回のペースで伝承講話を行うようになって、もうすぐ1年になる。

一人でも多くの人に「戦争や平和」に関心を持ってもらいたい

2015年には伝承者の有志の仲間5人で「被爆体験を継承する会」を立ち上げた。元は、伝承者養成期間に出会った、被爆者の岡田恵美子さんが出演されているドキュメンタリー映画「アトミック・ママ」の上映活動から始まったものだ。代表を務める船津さんとメンバーの一人甲斐さんは、「戦争に至る経緯には、貧困問題や人権問題、核開発、様々な争いことなどの複雑な背景がある」と思い、被害者、加害者双方の立場からの視点、グローバルな視点をもさらに深めていきたい

と思います。私たちは「知ろう」とすること、「行動しよう」とすること、そのきっかけづくりをお手伝いできればと考えています」と力を込めた。

平和の取り組みが根付いてほしい

船津さんは現在、グリーンコープ生協ひろしま中央支部のくらし委員会に所属し、組合員活動を楽しくしている。「被爆体験を継承する会」のことも委員会で紹介してきた。2016年度は、グリーンコープ生協ひろしまで、「太陽が落ちた日」の上映会と、在日韓国人被爆者の話を聴く平和学習会が開催された。「グリーンコープはのちをとても大切にしている生協。食べものも、くらしも平和な日常があればこそ。すべてつながっているんですよ。映画や学習会には親子で参加し、同じテーマを共有できればいいな

と思います。共感したり考えを話し合ったりする機会は貴重だと思おうから」と、これからも平和の取り組みに想いを寄せ

「語り部」として、被爆者の想いに寄りそう

現在船津さんは、被爆者児玉光雄さんの被爆体験を伝える伝承者となつて講話を担っている。平和記念資料館での講話時間は40分、原稿を手元に準備し、パワーポイントも使う。「できるだけ人の顔を見て、話しかけるように心がけています。毎回同じようにはいかないけれど、話が理解できているか、伝わっているかと気を遣います。でも、本当に被爆者本人の気持ちに近づけているかな、口先だけにならないかな、といつも考え、悩みながらやっています」。

市被爆した父親のこと、4歳で亡くなった叔父のこと。見えない放射線の怖さを訴える。
子どもたちの笑顔を絶やすことなく

「平和な日常を子どもたちに残していくために、自分にできることは何かを問いながら、同じ思いの仲間と一緒に、様々な活動を無理なく継続していきたい」と船津さん。

今日も一人ひとりの心に届くことを願って、言葉を尽くす。

※1 原爆投下後15日目(広島の場合8月20日)までに爆心地から概ね2キロ以内に入った人

※2 平和公園のガイドや平和記念資料館内の定点解説(希望者(事前予約と当日受付あり)には移動解説も行う)

※3 被爆体験伝承者の養成期間に聴講した被爆者(広島市平和文化センターが委嘱している証言者の話の中で「伝えたい」と思う被爆者の話を原稿にまとめ、講話の練習を重ねてから認定を受ける)

投稿コーナー

私の好きなグリーンコープ商品

みかんジュースストレート(ビン)

私の好きなグリーンコープ商品は、みかんジュースストレート(ビン)です。

うちの主人(50代)は甘いジュース系は嫌ですが、このみかんジュースはさっぱりして飲みやすく、甘ったらしくないし、みかんをしばっているようでおいしい!と言って、朝食の時と夜お風呂あがりに飲んでます。値段はちょっとだけ高めですが、みかんの味がしっかりして、体にいい感じがします。

これを飲んだら市販の100%ジュースは飲めません。それくらいおいしいです。

私はいつも6本入りのケースでまとめ買いしています。昨年の夏はペースが早くてあつという間に6本なくなってしまう事も多かったです。皆さんも1度飲んでみて下さい!!おいしいよ!!

グリーンコープ生協ふくおか 青木 三智代



投稿募集中
私の好きなグリーンコープ商品
250字程度
バツ切毎月末
住所氏名年齢TEL所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでも送ってください。
掲載分にはグリーン券(グリーンコープ商品の購入に利用できます)500円分を贈呈。
住所氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。
〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-11
博多大通りビルディング3F
グリーンコープコミュニケーション
ワーカーズ連(REN)
FAX 092-4811-7876
Eメールアドレス
tikoh@greencorp.or.jp



やっぱり このマヨネーズが一番!!

びん入り、この中味で、この価格!

元気な卵のマヨネーズ

試作品を食べ比べ 現行品が一番おいしい という結論に

グリーンコープの「元気な卵のマヨネーズ」は、産直たまごのおいしさを生かしたマヨネーズとして組合員に愛され続けています。

これまで、組合員から容器をリユースびんにできないか、もう少し小さなびんにできないかとの要望が多数寄せられていました。しかし、メーカーの設備の都合、また価格も高くなることから、実現できずにいました。

昨年、共同体商品検討委員会では、現在の500mlびんから350mlリユースびんにしたマヨネーズを開発するため、メーカー数社から試作品を提案してもらい検討しました。その結果、

やはり現行品が一番おいしいという結論に。これを超えるマヨネーズはないと、委員会でも共有しました。

この価格が実現できる理由

現行品メーカーでは小規格・リユースびんへの対応はできませんが、高い技術力によって確かな品質が保たれているだけでなく、独自の直送便を利用することで卵の搬送コストを抑えられ、他にはない利用しやすい価格が実現できています。委員会では味や価格等も含めて総合的に考え、今のままのかたちで継続することを決定。まだ食べたことのない組合員にも「元気な卵のマヨネーズ」のおいしさを広く伝えて、これからも利用していただく皆で気持ち一つにしました。

唯一無二の素晴らしいマヨネーズと実感しました

共同体商品検討委員長 薬師寺 ひろみ さん



共同体商品検討委員会では、組合員の要望である「リユースびん化・小規格化」の実現に向けて、コンペの条件から選定方法に至るまでを丁寧に検討しました。3社より5つのサンプルが提案され、現行品の継続も視野に入れて6つのサンプルを試食し、ほぼ同じ原料なのに、配合比や技術力により、味や風味に違いがはっきり表れていることに全員が驚きました。真摯に検討



試食検討の様子

を重ね、「味・価格・仕様・規格」の全てを総合的に判断した結果、現行品のマヨネーズを選定しました。今回改めて、10年以上も愛され続けてきた「元気な卵のマヨネーズ」の素晴らしさを実感しました。唯一無二のおいしいマヨネーズです。自信をもっておすすめします♡

グリーンコープのこだわり商品が原料

マヨネーズは油・卵・酢から作られます

食酢を使って マイルドな酸味に

木桶でじっくりと発酵・熟成させる伝統的な製法で作られます。豊かなうまみと、ツーンとこないまろやかな風味が特長です。



元気いっぱい産直たまご

の黄身だから

コクがあってまろやか

母鶏は、自然の風や日光が入る開放型鶏舎で健康的に育ちます。飼料には国産飼料用米が30%も含まれています。元気な母鶏から産まれた新鮮な卵は、弾力が違います。マヨネーズ1びんの中に4~5個分の卵黄が入っています。



一番搾りなたね油菜の花物語 だからサラッとしつこくない

一般品に使われている抽出溶剤を使わずに、昔ながらの圧搾法で搾られています。くせがなく軽い口当たり。酸化しにくいので、加熱せずに作られるマヨネーズにもぴったりです。



2017年1月の組合員数

409631人 (1/20現在)

リユース、リサイクルデータ

2016年12月分 (回収率)

牛乳びん 回収率 98.7%	トレー 回収率 43.6%
モールドパック 回収率 86.7%	リユースびん 回収率 63.5%

☆仕分け袋の回収率は8.8%

日本では数少ない袋から袋へのリサイクルです。ラベルを切り取り、ゴミや汚れを落として出してください。



フードマイレージ

2017年1月に組合員の利用によってたまったのは

5,830,806.5 CO2に換算して583トン削減したことになります

2009年9月からの累計は、513,693,495.0ポコ

アジア民衆基金

2017年1月に組合員の利用によってたまったのは

540,114円

2009年4月からの累計は、52,915,975円

原料は完全に non-GMO (遺伝子組み換えでない) を実現

「元気いっぱい産直たまご」の母鶏の飼料は米国産 non-GM トウモロコシが主原料。「一番搾りなたね油菜」の花物語はオーストラリア産 non-GM ナタネ。「食酢」に使われるアルコールは、一般的な遺伝子組み換え不分別のトウモロコシでんぷんではなく、さとうきびの廃糖蜜から作っています。貴重な non-GMO を原料にした商品から作った「元気な卵」のマヨネーズは、完全に non-GMO を実現した他にはないマヨネーズです。

おいしさと安心・安全へのこだわり

素材の味がいいから 化学調味料は無添加

原料はとてもシンプル。油・卵・酢に、調味料として塩・砂糖・からし・マスタードシードオイルを加えただけ。

一般品に多く使われている化学調味料はいっさい使っていません。

おいしさを逃さない びん容器

ガラスびんは外気を通さず外からの圧力が中身に伝わりにくいので、チューブ容器に比べ味の変化やにおい移りが起きにくいといわれます。

共生の時代

別紙

放射能汚染と向きあう (放射能測定室より)

発行 グリーンコープ共同団体理事会 編集 共生の時代・編集部 〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 博多大博通ビルディング3階 電話 (092) 481-7923 FAX (092) 481-7876 ホームページ: http://www.greencoop.or.jp/

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑦⑩

2017 年 1 月 20 日から 2 月 16 日(一部 1 月 20 日以前の測定分を含む)に 202 品目の検査を行い、「12687 原木生しいたけ(九州自然の会)」 「12750 国内産冬茹椎茸(どんこ)(乾物)・しいたけどんこ(中小玉)(乾物)」 「12695 有機メープルシロップ(ミディアム)」 「12720 メープルシロップ」からグリーンコープのアクション基準(10 ベクレル/kg)以下の残留放射能が検出されました。

厚生労働省の「食品の放射性物質に係る基準値の設定」では、「食用に供する状態(お茶は抽出液、乾物は水戻し)で行うとなっていることから、椎茸は水戻し状態で測定し、水戻しでは検出されませんでした。乾燥・水戻し両方の結果を掲載しています。

食用に供する状態で 10 ベクレルを超えた場合は、供給の是非をグリーンコープ共同団体理事会で検討することになっています。

※原料産地欄の案内は、単一原料もしくは主たる原料が明らか場合はその原料の産地を表現しています。パンは菓子パンも含めて小麦の産地を記載しています。また、複数の原料で、主たる原料がわかりにくいもの、もしくは産地が多岐にわたる場合は原料産地に「—」(横線)を記載しています。
※2013 年度の新米から西日本地区の産地のお米は産地単位の測定に変更となっています。東北のお米は従来どおり産地毎・品種毎の測定です。
※「検出限界値」とは、放射能検査において測定できる最小値のことをいいます。放射能の特性として、同じ機器で測定しても検体ごとに検出限界値は変動します。
※検査法の記号「Ge」はゲルマニウム半導体検出器での測定であることを示しています。「NaI」は NaI シンチレーションスペクトロメータでの測定であることを示しています。
※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

放射能 Q & A

⑦ベクレルとシーベルトってどう違うの?

放射性物質が持つ放射線の強さを表すのがベクレル、人体が直接受ける放射線の量を表すのがシーベルト。

ストーブにたとえると、ストーブから放出される熱の総量を表す単位がベクレル、そこから人が実際に受ける熱量を表すのがシーベルトです。

ベクレルは主に食品や水・土壌の中に含まれる放射線の強さを表す場合に「1kgあたり500ベクレル」のような形で使います。

シーベルトは、外部被曝や内部被曝で実際に人体が影響を受ける線量を表す単位で「1時間あたり1ミリシーベルト」のような形で使います。

Table with columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法 (Ge/NaI), ヨウ素-131 (結果, 検出限界値), セシウム-134 (結果, 検出限界値), セシウム-137 (結果, 検出限界値). Contains 202 rows of inspection data.

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

番号	商品分類	商品名	原料産地	製造地	製造日・収穫日等	測定日	検査法 (Ge/NaI)	ヨウ素-131		セシウム-134		セシウム-137		
								結果 (Bq/kg)	検出限界値 (Bq/kg)	結果 (Bq/kg)	検出限界値 (Bq/kg)	結果 (Bq/kg)	検出限界値 (Bq/kg)	
12642	12	冷蔵加工品	ポークしゅうまい	(玉ねぎ)北海道、佐賀県(豚)福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県(キャベツ)国内各地	福岡県久留米市	2017/1/23製造	2017/1/25	Ge	検出せず	0.86	検出せず	0.97	検出せず	1.02
12607	12	冷蔵加工品	かつお角煮	(かつお)鹿児島県枕崎港	鹿児島県枕崎市	2017/1/10製造	2017/1/20	Ge	検出せず	0.79	検出せず	0.95	検出せず	0.95
12762	13	冷凍加工品	産直豚スペアリブタレ漬け	(豚)福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県	岡山県勝田郡	2017/1/24製造	2017/2/10	Ge	検出せず	0.67	検出せず	0.89	検出せず	0.93
12760	13	冷凍加工品	国産豚合ミンチ(山亭屋)	(牛)国内各地(豚)福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県	長崎県西海市	2017/2/3製造	2017/2/10	Ge	検出せず	0.91	検出せず	1.08	検出せず	1.07
12732	13	冷凍加工品	ひじき入り白和え(冷凍)	(大豆)九州各地(ひじき)国内各地(ほうれん草)福岡県、熊本県、宮崎県	福岡県宮若市	2017/1/27製造	2017/2/7	Ge	検出せず	0.78	検出せず	0.79	検出せず	1.03
12731	13	冷凍加工品	白和え(冷凍)	(大豆)九州各地(ほうれん草)福岡県、熊本県、宮崎県(しいたけ)国内各地	福岡県宮若市	2017/1/18製造	2017/2/7	Ge	検出せず	0.86	検出せず	1.01	検出せず	0.94
12719	13	冷凍加工品	国産牛カルビたれ漬	(牛)熊本県	熊本県熊本市	2017/2/1製造	2017/2/4	Ge	検出せず	0.78	検出せず	0.90	検出せず	0.87
12710	13	冷凍加工品	フライパンチキン	(鶏)島根県、山口県、福岡県、熊本県	山口県山口市	2017/1/11製造	2017/2/3	Ge	検出せず	0.77	検出せず	0.87	検出せず	0.81
12709	13	冷凍加工品	あらびきチキンナゲット	(鶏)熊本県上益城郡	熊本県上益城郡	2016/7/1製造	2017/2/3	Ge	検出せず	0.88	検出せず	1.10	検出せず	1.04
12702	13	冷凍加工品	そのままお弁当へゆず香る天然ぶりの照焼	(ぶり)国内各地	佐賀県唐津市	(ぶり)2016年3月~8月漁獲	2017/2/2	Ge	検出せず	0.84	検出せず	0.76	検出せず	0.97
12701	13	冷凍加工品	そのままお弁当へ国産さば照焼冷凍	(さば)国内各地	佐賀県唐津市	(さば)2016年1月~3月漁獲	2017/2/2	Ge	検出せず	0.76	検出せず	0.79	検出せず	0.94
12700	13	冷凍加工品	そのままお弁当へ国産ぶりの竜田揚げ	(ぶり)国内各地	佐賀県唐津市	(ぶり)2016年3月~8月漁獲	2017/2/2	Ge	検出せず	0.89	検出せず	1.09	検出せず	0.99
12699	13	冷凍加工品	そのままお弁当へ鮭とさばの塩焼	(鮭)北海道(さば)国内各地	佐賀県唐津市	(鮭)2015年9月~11月漁獲(さば)2016年1月~3月漁獲	2017/2/2	Ge	検出せず	0.88	検出せず	1.14	検出せず	0.88
12698	13	冷凍加工品	国産さばの南蛮漬	(さば)国内各地	佐賀県唐津市	(さば)2016年1月~3月漁獲	2017/2/2	Ge	検出せず	0.73	検出せず	0.88	検出せず	0.86
12682	13	冷凍加工品	九州産野菜ミックス	(里芋・ごぼう・人参・大根)宮崎県・鹿児島県(たけのこ)九州各地	宮崎県都城市	(里芋)2016/11/17収穫(たけのこ)2016/7/9収穫(ごぼう)2016/8/29収穫(人参)2014/5/28収穫(大根)2014/12/7収穫	2017/1/31	Ge	検出せず	0.71	検出せず	0.89	検出せず	1.11
12681	13	冷凍加工品	冷凍彩り野菜のイタリアンミックス	(ズッキーニ・なす)宮崎県(ピーマン)宮崎県、鹿児島県	宮崎県西都市	(ズッキーニ)2015年5月~6月収穫(なす・ピーマン)2015年4月~6月収穫	2017/1/31	Ge	検出せず	0.84	検出せず	0.90	検出せず	1.02
12680	13	冷凍加工品	パエリアセット	(ほたて・いか)北海道(かに)国内各地(パナール)ニュージラード(えび)タイ	福岡県福岡市	2017/1/27製造	2017/1/31	Ge	検出せず	0.96	検出せず	0.70	検出せず	0.85
12678	13	冷凍加工品	十勝アリゴ	(生乳・じゃがいも)北海道	北海道河西郡	2016/10/18製造	2017/1/31	Ge	検出せず	1.23	検出せず	1.29	検出せず	1.43
12668	13	冷凍加工品	クリーミーかにコロッケ	(かに)日本海沖(小麦)北海道(玉ねぎ)国内各地	鳥取県境港市	2017/1/6製造	2017/1/27	Ge	検出せず	0.68	検出せず	0.82	検出せず	1.06
12667	13	冷凍加工品	えびチリ(冷凍)	(えび)ベトナム、インドネシア	鹿児島県いちき串木野市	(えび)2016年8月水揚げ	2017/1/27	Ge	検出せず	0.75	検出せず	0.82	検出せず	1.12
12644	13	冷凍加工品	冷凍5色ビーンズ	(金時豆・大豆・手亡豆・黒大豆)北海道(青大豆)東北各地	北海道河西郡	(金時豆・黒大豆)2014年収穫(大豆・手亡豆・青大豆)2015年収穫	2017/1/25	Ge	検出せず	0.87	検出せず	0.82	検出せず	1.14
12643	13	冷凍加工品	海鮮しゅうまい いか	(玉ねぎ)北海道、佐賀県(キャベツ・いか)国内各地	福岡県久留米市	2016/12/26製造	2017/1/25	Ge	検出せず	0.74	検出せず	0.92	検出せず	1.15
12631	13	冷凍加工品	産直豚モモ味付け細切り	(豚)福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県	熊本県熊本市	2017/1/11製造	2017/1/24	Ge	検出せず	0.86	検出せず	0.93	検出せず	0.96
12605	13	冷凍加工品	冷凍野菜あんかけラーメン	(小麦)国内各地(もやし)熊本県(キャベツ)北海道、群馬県、長野県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県(玉ねぎ)北海道、兵庫県、佐賀県、長崎県、熊本県(人参)北海道、青森県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県(さやいんげん)北海道、熊本県	熊本県八代市	2017/1/12製造	2017/1/20	Ge	検出せず	0.85	検出せず	0.85	検出せず	0.96
12803	14	常温加工品	小えびふりかけ	(かつお)静岡県、鹿児島県(ごま)パラグアイ、エチオピア(えび)広島県	熊本県玉名市	(かつお)2016/9/2、6漁獲(ごま)2015年3月~9月、2016年3月~9月収穫(えび)2016年11月水揚げ	2017/2/16	Ge	検出せず	1.21	検出せず	1.54	検出せず	1.29
12802	14	常温加工品	かつおふりかけ	(かつお)静岡県、鹿児島県(ごま)パラグアイ、エチオピア	熊本県玉名市	(かつお)2016/9/2、6漁獲(ごま)2015年3月~9月、2016年3月~9月収穫	2017/2/16	Ge	検出せず	1.14	検出せず	1.37	検出せず	1.49
12801	14	常温加工品	かつおちりめんふりかけ	(かつお)静岡県、鹿児島県(いわし)広島県(ごま)パラグアイ、エチオピア	熊本県玉名市	(かつお)2016/3/16、5/23漁獲(いわし)2016年7月水揚げ(ごま)2015年3月~11月収穫	2017/2/16	Ge	検出せず	1.21	検出せず	1.27	検出せず	1.33
12800	14	常温加工品	味ごまふりかけ黒ごま入り	(ごま)パラグアイ、エチオピア、ミャンマー、メキシコ	熊本県玉名市	(ごま)2014年8月~9月、2015年3月~12月、2016年1月~9月収穫	2017/2/16	Ge	検出せず	1.12	検出せず	1.14	検出せず	1.44
12785	14	常温加工品	国産すりごま(白)	鹿児島県	鹿児島県始良郡	2016年9月収穫	2017/2/15	Ge	検出せず	1.47	検出せず	1.60	検出せず	1.61
12767	14	常温加工品	レトルトカレー(甘口)	(じゃがいも・玉ねぎ)国内各地	佐賀県唐津市	2017/1/12製造	2017/2/10	Ge	検出せず	0.77	検出せず	0.89	検出せず	0.88
12766	14	常温加工品	レトルトカレー(中辛)	(じゃがいも・玉ねぎ)国内各地	佐賀県唐津市	2017/2/3製造	2017/2/10	Ge	検出せず	0.72	検出せず	0.84	検出せず	0.80
12752	14	常温加工品	国内産冬菇椎茸(どんこ)(水戻し)しいたけどんこ(中小玉)(水戻し)	国内各地	福岡県久留米市	2016年2月~6月収穫	2017/2/9	Ge	検出せず	0.98	検出せず	0.84	検出せず	1.12
12750	14	常温加工品	国内産冬菇椎茸(どんこ)(乾物)しいたけどんこ(中小玉)(乾物)	国内各地	福岡県久留米市	2016年2月~6月収穫	2017/2/9	Ge	検出せず	1.07	検出せず	1.20	4.11	1.43
12749	14	常温加工品	国内産お徳用小さい乾しいたけ(原木)(乾物)	国内各地	福岡県久留米市	2016年2月~6月収穫	2017/2/9	Ge	検出せず	1.43	検出せず	1.34	検出せず	1.53
12720	14	常温加工品	メープルシロップ	カナダケベック州	カナダケベック州	2015年採取	2017/2/6	Ge	検出せず	0.73	検出せず	0.87	2.56	0.88
12718	14	常温加工品	国産すりごま(黒)	長崎県、鹿児島県	鹿児島県始良郡	2016年9月収穫	2017/2/4	Ge	検出せず	1.54	検出せず	1.59	検出せず	1.77
12695	14	常温加工品	有機メープルシロップ(メディアム)	カナダケベック州	カナダケベック州	2016年採取	2017/2/2	Ge	検出せず	0.72	検出せず	0.77	3.82	0.69
12636	14	常温加工品	国産ねりごま(白)	(ごま)鹿児島県	鹿児島県始良郡	(ごま)2016年9月収穫	2017/1/25	Ge	検出せず	1.32	検出せず	1.30	検出せず	1.45
12623	14	常温加工品	長崎県産芽ひじき(天日乾燥)長崎県産長ひじき(天日乾燥)	長崎県	長崎県五島市	2016年5月水揚げ	2017/1/23	Ge	検出せず	1.12	検出せず	1.27	検出せず	1.54

※下記一覧表の結果の「検出せず」は、検出限界値を超えての検出はなかったことを表しています。

Table with 15 columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法 (Ge/Nal), ヨウ素-131 (結果, 検出限界値), セシウム-134 (結果, 検出限界値), セシウム-137 (結果, 検出限界値). Rows list various food items like wheat products, soybeans, and vegetables with their respective testing results.

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています

●放射性セシウムの基準値について

2012年4月からの国の基準は、一般食品100ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳50ベクレル/kg、飲料水10ベクレル/kg以下です。

グリーンコープは取り扱うすべての商品や原料について10ベクレル/kgを自主基準とし、10ベクレル/kg以上の数値が出た場合、共同理事会に報告し、取り扱いについて検討・決定することとしています。

●グリーンコープでの放射線検査内容と報告について

検査対象 グリーンコープでは、商品や原料について放射線汚染が心配される地域は関東から東北地方エリアが中心であるものの、必ずしもエリアを限定して考えるべきではないという判断で、また利用される組合員の心配に対応するためにも検査対象を全国に広げています。また外国産の食品も検査対象にしています。

検査対象 2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関 2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室(福岡市)で検査を開始しました。

検査日 検体を測定した日を記入しています。

検査結果 ヨウ素131とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。検出限界値未満の結果については「検出せず」と表記します。「検出限界値」とは、測定において検出できる最小値のことをいいます。放射能の特性として、同じ機器で測定しても検体ごとに検出限界値は変動します。

※検出限界値未満とは、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があるということです。厚生労働省から2011年9月29日付けで、検出限界値未満の結果については、測定によって得られた検出限界値を表示するよう通知が出されており、国や自治体から公表される検査結果には、検出限界値が表示されるようになりました。